

情報通信審議会 情報通信技術分科会
技術戦略委員会 社会実装加速化WG（第1回）
議事概要

第1 開催日時及び場所

令和6年11月26日（火）10時00分～12時00分

於、WEB会議による開催

第2 出席した構成員（敬称略）

平田 貞代（主任）、上原 哲太郎、榮藤 稔、岡崎 直観、立本 博文、盛合 志帆

第3 出席した関係職員

（1）総務省

近藤 玲子（官房審議官）

松井 正幸（技術政策課長）

大野 誠司（技術政策課革新的情報通信技術開発推進室長）

内田 雄一郎（技術政策課企画官）

平野 裕基（技術政策課課長補佐）

（2）プレゼンター

中尾 彰宏（東京大学大学院教授）

原山 優子（GPAI東京専門家支援センター長）

第4 議題

社会実装加速化ワーキンググループの設置について

（1）主な検討項目・論点について

（2）社会実装・外部連携等に関するNICTの取組について

- 革新的情報通信技術（Beyond 5G（6G））基金事業
- GPAI東京専門家支援センター

(3) 関係者ヒアリング

- 東京大学大学院教授 中尾 彰宏様
- GPAI 東京専門家支援センター長 原山 優子様

(4) 自由討議

第5 議事要旨

(1) 社会実装加速化WGの設置目的および主な調査内容、運営等について、事務局より資料1-1に基づき説明があった。

(2) 社会実装加速化WGの主な検討項目・論点について、事務局より資料1-2に基づき説明があった。

(3) 社会実装・外部連携等に関するNICTの取組について、盛合構成員より資料1-3に基づき説明があった。

- NICT 発のベンチャーについて、どういった内容なのか紹介してほしい。
 - 例えば、時空間同期や宇宙天気予報に関するベンチャーが最近活発である。
- 社会実装を進め、産業として回るようにすることが重要。現行の基金の枠組みでは、ベンチャーへの支援が難しいように思える。Beyond 5G という分野で、ベンチャーをどう支援していくのか。
 - 機構長もベンチャーへの支援方法を常々考えている。ベンチャー支援として、NICT では起業家甲子園など様々な取組を行っている。
- NICT の主な研究開発課題について、セキュリティは生成 AI の時代においてさらに重要になる。AI や複雑なシステムの監視技術、ゼロトラスト技術等も幅広く考えるべきではないか。
 - サイバーセキュリティ研究所では、AI 技術をサイバーセキュリティの監視や運用の効率化に向けた研究開発を行っている。AI のためのセキュリティも検討が進んでいる。

- AIのセキュリティについて、IPAとも協力しているとのことだが、その状況はどうか。

- IPAとは様々な点で協力関係がある。GPAI東京専門家支援センターが立ち上がり、AIの安全性についてIPAとパートナーシップ協定を結び、NICTも参画して情報共有や連携を図っている。

(4) Beyond5G基金事業およびGPAI東京専門家支援センターについて、それぞれプレゼンターより資料1-4、1-5に基づき説明があった。

- プレゼンターの発表に関する質問がある場合は事務局にメールにて連絡いただく。

(5) 全体についての意見交換

- 人材不足が大きな課題であり、優れた技術があっても前に進めない原因の一つとなりつつある。NICTの人材育成プロジェクトが、研究開発戦略の出口にどう繋がるかを、戦略的に考える必要がある。
- AI研究の国際連携の拠点であるGPAIが日本にあることは心強い。生成AIは問題の発生スピードが非常に速いが、専門家の知見を法制度や社会制度へと繋げる空気を作っていくべき。
- NICTが多岐にわたる研究を行うことが、技術が分かる人材が育てることになる。情報通信分野を軸に、国家として、無色透明なコンサルティングエージェンシーとして活躍してもらいたい。
- ファundingエージェンシーとしてのKGIを決めるべきである。また、単純な助成ではなく、若い世代や中規模企業、スタートアップといったこれから伸びていくところにどのように助成するかや、会社が育つ方向に研究テーマを設定することも必要である。
- 3GPP Release 18で仕様化された技術として、基地局での位置推定、AIを使ったネットワーク効率化、Massive MIMOの高度な制御などを日本企業が実装できるかが

懸念される。我が国としては競争力を維持するためにどこに注力していくべきか、日本の強みをどこに持ってくるべきかが大事。

- GPAI の SAFE プロジェクトにおいて、NIST のセキュリティフレームワークが決められることを期待。また、AI の進展に伴い、シンギュラリティが来る際にどのような世界になるかを注視する必要がある。
- JST の CRONOS の取組は、基盤研究から応用への橋渡しまでがうまく構成されている。Beyond 5G 基金でも参考になる仕組みや、連携方法についても参考になるのではないかと。
- AI の安全性は重要なテーマ。NICT には機械翻訳等の研究開発で培った強みがあるが、GPAI との連携を通じて、安全性の担保についても、研究開発に取り組んでほしい。
- AISI と具体的な連携を計画してほしい。国際的な取組であり、各国で AI 推進や安全性に関する考え方も異なるので、日本として何を打ち出していくのかといった視点が大事。
- NICT として、強力な海外パートナーとの国際的な産学連携に課題を感じており、強化していきたい。また、Beyond 5G については、米国 FCC の事例のように、関係者が集まりやすい連携拠点を設けることも検討していきたい。GPAI 東京センターについては、NICT に設置されたため、色々な場を提供できると考えており、各国の様々な専門家を繋ぐハブになっていきたい。基金や AI 等、NICT に求められる役割が増えているが、職員数が不足しているため、人材の確保にも努めていきたい。

以上